

### 3. 基本調査地域の評価

本調査では、平成 18 年度調査において、自然環境価値の最も高い地域（ゾーン I）として評価された地域を基本調査地域として調査を行った（ただし、各調査分野ごとに調査が必要と思われる地域についての調査も実施している）。これらを踏まえ、本項では、本調査の基本調査地域、すなわち、自然環境価値の最も高い地域（ゾーン I）、についての評価を行う。

各地域の評価は、各調査分野ごとに表 10-4 の選定基準に基づき A、B、C、D で評価を行った（A が最も良い：表 10-5）。また、各調査員の経験・感覚に基づいた平成 18 年度から平成 28 年度の間における変化についても評価を行った（表 10-5 の青・赤字を参照：ランクに変更が無い場合もある）。

大まかな傾向としては、この 10 年間にランクを変更するような変化は少なかったと言える。ランクの変更が行われた調査項目は、さつき松原の植物が「B→C」、許斐山の山頂付近の植生が「A→A、B」、名残の鳥類が「B→C」、および、名残のコウチュウが「B→C」に低評価となった。理由は、植物が「海岸砂丘群落の低下」、植生が「二次植生※の確認」、鳥類が「遊歩道の整備、オオタカ営巣木の伐採」、コウチュウが「乾燥化とタケ類の拡大」である。一方、哺乳類では、さつき松原、釣川中流～下流周辺、磯部山周辺、鐘崎海岸でランクを 1 つ上げる評価がなされ、いずれも新規の動物種の確認が理由として挙げられた。

また、ランクの変化までは至らないが、各調査員の経験・感覚において、生物相の変化が生じていると感じられる生物群・地域が多数認められた。良好な変化としては、城山や弘大寺、釣川下流における希少植物の増加や吉田・多礼貯水池周辺におけるミコアイサの越冬などが挙げられる。一方、前記以外のほとんどの地域の植物は、悪化の兆候が認められている。コウチュウもまた、多くの地域（大島、城山、さつき松原、許斐山、名残）で種数や個体数の減少などの悪化傾向が認められた。加えて、沖ノ島に侵入したクマネズミやトブネズミの増加は、将来的に本島の鳥類に甚大な被害をもたらす可能性があり、今後の継続的な観察が必要である。

---

#### ※二次植生

人為的影響を受けた経歴のない原生植生（原始植生、一次植生）に対して、人為的影響下で成立している代償植生のことをいう。

表 10-4 各分野で採用した選定基準

分野	平成18年度	平成28年度	備考
植生	①環境省特定植物群落及び類似地域 (単一群落、複合群落) ②天然記念物・自然公園等 ③公益的機能 ・水源涵養機能 ・貯水機能 ・防風・防砂・防潮・保健機能	①環境省特定植物群落及び類似地域 (単一群落、複合群落) ②天然記念物・自然公園等 ③公益的機能 ・水源涵養機能 ・貯水機能 ・防風・防砂・防潮・保健機能	●変更無し
植物	①貴重な群落・種の成立・生育地 ・環境省レッドデータブック ・天然記念物 ・環境省特定植物群落 ・市内暫定希少種 ・(情報不足)希少種	①貴重な群落・種の成立・生育地 ・環境省レッドデータブック ・天然記念物 ・環境省特定植物群落 ・市内暫定希少種 ・(情報不足)希少種	●変更無し
哺乳類	①テン・イタチ等の高次捕食者生息確認(B) ②ノウサギ、カヤネズミ生息確認(C) ③クマネズミ、ハツカネズミ等の生息が予想される(D)	福岡県RDB、景観などを総合的に判断。 ①テン・イタチ等の高次捕食者生息確認(B) ②ノウサギ、カヤネズミ(全体的に減少)生息確認(C) ③クマネズミ、ハツカネズミ等の生息が予想される(D)	●変更有り 新たにコウモリ類が確認されたことによる視点の追加
鳥類	①貴重な種の生息地 (法律、RDB記載種55種のうち、偶発的確認、特に重要な生息地となっていないものを除外して検討) ・ランク1 ー世界的に生息数が少ない、生息地(繁殖地・越冬地)が限られるもの ・ランク2 ー国内での分布が限られるもの、近年著しく減少しているもの ・ランク3 ー宗像市には比較的普通に生息しているものの、他地域では減少もしくは個体数が少ないもの(開発計画などにより影響を受けやすいもの) ・学術的に貴重な種 ー分布等で特に学術的に貴重なもの	①貴重な種の生息地 (法律、RDB記載種55種のうち、偶発的確認、特に重要な生息地となっていないものを除外して検討) ・ランク1 ー世界的に生息数が少ない、生息地(繁殖地・越冬地)が限られるもの ・ランク2 ー国内での分布が限られるもの、近年著しく減少しているもの ・ランク3 ー宗像市には比較的普通に生息しているものの、他地域では減少もしくは個体数が少ないもの(開発計画などにより影響を受けやすいもの) ・学術的に貴重な種 ー分布等で特に学術的に貴重なもの	●変更無し
爬虫類:両生類	①貴重な種の生息地 ・福岡県RDB掲載種 ・宗像市において分布の限られている種等 ②両生類の生息種数が多い地域 (両生類相の豊かな地域)	①貴重な種の生息地 ・福岡県RDB掲載種 ・宗像市において分布の限られている種等 ②両生類の生息種数が多い地域 (両生類相の豊かな地域)	●変更無し
昆虫類 (コウチュウ類)	①福岡県RDB掲載種 ②本市をタイプロカリティとする種 ③学術的に貴重な種 (例:環境指標として動向に注目すべき種) ④分布を拡大していると思われる種 (例:環境指標として動向に注目すべき種) ⑤市民生活と関わりのある種 (例:自然に目を向けるきっかけとなるもの)	①福岡県RDB掲載種 ②本市をタイプロカリティとする種 ③学術的に貴重な種 (例:環境指標として動向に注目すべき種) ④分布を拡大していると思われる種 (例:環境指標として動向に注目すべき種) ⑤市民生活と関わりのある種 (例:自然に目を向けるきっかけとなるもの)	●変更無し
昆虫類 (蝶類)	—	①福岡県RDB掲載種 ②本市で唯一の生息地 (コムラサキ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミ) ③学術的価値の高い生息環境(孤島の生息環境)	●新規追加
水生生物	①ニッポンバラタナゴ、メダカの生息場所の中心 ②釣川水系の本流最上流部。底生動物の多様性が比較的高く、水源涵養の観点から重要 ③釣川水系の底生動物の多様性を保つ上で重要	①ニッポンバラタナゴ、メダカの生息場所の中心 ②釣川水系の本流最上流部。底生動物の多様性が比較的高く、水源涵養の観点から重要 ③釣川水系の底生動物の多様性を保つ上で重要 ④海岸動物・藻類の多様性を保つ上で重要な地域	●変更有り 平成19年の3項目に加えて、水生生物に関する④を追加

表 10-5 保全すべき生態系を有する地域の分野別対応表（ゾーンⅠのみ）（1/5）

区分	番号	名称	関連分野の概要				
			分野	判定根拠	H18 評価	H28 評価	備考
ゾーンⅠ	1	沖ノ島・ 小屋島	植生	全島 自然植生(海岸風衝草原、海岸風衝低木林、照葉樹高木林)	A	A	
			植物	沖ノ島	A	A	評価ランクには変化はないが、自然攪乱(土砂災害)、参道除伐あり。
			哺乳類	クマネズミ等の生息が予想される。	D	D	
			鳥類	ヒメクロウミツバメ、カンムリウミスズメ、ウチヤマセンニユウ、オオミズナギドリ、カラスバト、リュウキュウコノハズク 等	A	A	評価ランクには変化はないが、沖ノ島でのクマネズミ、ドブネズミ増加。ノネコは絶滅? 小屋島は2009年にドブネズミが侵入し、カンムリウミスズメ、ヒメクロウミツバメが壊滅的被害を受ける。その後回復しつつある。
			爬虫類・両生類	—	—	—	
			昆虫類 (コウチュウ類)	沖ノ島	A	A	
			昆虫類 (蝶類)	—		A	
			水生生物	岩礁地帯(磯)		D	海生生物の生息環境としての判定により追加。
	2	地島遠見 山周辺	植生	東・北斜面 自然植生(海岸風衝草原、海岸風衝低木林、照葉樹高木林) 西斜面 代償植生(照葉樹二次林)	A B	A B	
			植物	地島(祇園山・遠見山周辺)	B	B	評価ランクには変化はないが、ミヤコジマツツラフジ増加、林床植物の減少顕著。
			哺乳類	ハツカネズミ等の生息が予想される。	D	D	
			鳥類	カラスバト、ミサゴ、ハヤブサ 等	B	B	
			爬虫類・両生類	—	—	—	
			昆虫類 (コウチュウ類)	地島遠見山と海岸地域	A	A	
			昆虫類 (蝶類)	—		C	
			水生生物	岩礁地帯(磯)		D	海生生物の生息環境としての判定により追加。
	3	大島中央 ～北部	植生	御嶽周辺 自然植生(照葉樹高木林) 北・西海岸斜面 自然植生(海岸風衝草原、海岸風衝低木林) 御嶽周辺 代償植生(照葉樹二次林)	A A B	A A B	
			植物	大島	B	B	評価ランクには変化はないが、帰化植物の増加、希少種の種数増加。
			哺乳類	ハツカネズミ等の生息が予想される。	D	D	
			鳥類	カラスバト 等	B	B	
			爬虫類・両生類	—	A	A	
			昆虫類 (コウチュウ類)	大島御嶽周辺 大島東部	A A	A A	評価ランクに変化はないが、牧場地の減少、森林の乾燥化、海岸砂地の整備などによると思われる種数・個体数の減少。
			昆虫類 (蝶類)	—		A	
			水生生物	岩礁地帯(磯)		D	海生生物の生息環境としての判定により追加。

※H28 の欄の青文字は H18 と比較して良い方向での変化があったこと、赤文字は要注意の方向での変化があったことを示す。

※「H18 評価」、「H28 評価」の欄の“—”は、調査は行っているが、評価レベルになかったことを示す。

表 10-5 保全すべき生態系を有する地域の分野別対応表（ゾーンⅠのみ）（2/5）

区分	番号	名称	関連分野の概要				
			分野	判定根拠	H18 評価	H28 評価	備考
ゾーンⅠ	4	孔大寺山・弥勒山・金山・城山周辺	植生	孔大寺山～白山 自然植生(照葉樹高木林)	A	A	
				城山 自然植生(照葉樹高木林、夏緑樹高木林)	A	A	
				弥勒山 代償植生(照葉樹二次林、夏緑樹二次林)	B	B	
			植物	城山	A	A	評価ランクには変化はないが、希少種の種数増加。
				孔大寺・樽見川上流域	A	A	評価ランクには変化はないが、希少種の種数増加、山地の林床植物減少。
				弥勒山・金山周辺	B	B	評価ランクには変化はないが、山地の林床植物減少。
			哺乳類	テン・イタチ等の高次捕食者生息確認。	B	B	
			鳥類	ミゾゴイ、ヤマドリ、サンコウチョウ、サシバ等	A	A	
			爬虫類・両生類	—	A	A	
			昆虫類 (コウチュウ類)	城山	A	A	評価ランクに変化はないが、樹木の生長、登山者の増加などによると思われる森林内の乾燥化により、特に食菌性の種の著しい減少。
				孔大寺山山麓	C		
				白山		A	
			昆虫類 (蝶類)	湯川山と池田地区		C	
				孔大寺山		D	
				山田ホテルの里(金山山麓)		A	
				城山		B	
			水生生物	—	D		
	5	さつき松原	植生	砂丘 自然植生(砂丘草原、塩沼地草原)	A	A	
				砂丘 植林(クロマツ植林)	B	B	
			植物	「少年自然の家」さつき松原	B	C	海岸砂丘群落減少。
				鐘崎海岸・鐘ノ岬(織幡宮)・さつき松原(上八海岸)周辺	B	B	評価ランクには変化はないが、マツ枯れにより地表のかく乱と帰化植物の種、量増加が見られる。
			哺乳類	ハツカネズミ等の生息が予想される。	D	C	松林内にはタヌキ、アナグマ、ノウサギなどが生息。
			鳥類	ヨタカ生息の可能性、渡り鳥の中継地 等	C	C	
			爬虫類・両生類	—	—	—	
			昆虫類 (コウチュウ類)	さつき松原	A	A	評価ランクに変化はないが、松食い虫被災木の伐採による森林内の乾燥化、海岸砂丘の荒れや減少によると思われる種数・個体数の減少。
			昆虫類 (蝶類)	—		C	
			水生生物	—	C		

表 10-5 保全すべき生態系を有する地域の分野別対応表（ゾーンⅠのみ）（3/5）

区分	番号	名称	関連分野の概要				
			分野	判定根拠	H18 評価	H28 評価	備考
ゾーンⅠ	6	釣川中流～下流周辺	植生	鎮国寺境内 自然植生(照葉樹高木林)	A	A	
				砂丘 植林(クロマツ植林)	B	B	
			植物	釣川下流	C	C	評価ランクに変化はないが、帰化植物の増加、希少種の種数増加が見られる。
				鎮国寺	C	C	
				宗像大社・氏八幡	C	C	
				釣川中流(下)	C	C	評価ランクには変化はないが、希少種の種数増加が見られる。
				釣川中流(上)	C	C	評価ランクには変化はないが、川の堤防の帰化植物の増加が見られる。
			哺乳類	ノウサギ、カヤネズミ、ユビナガコウモリ、モモジロコウモリの生息確認。	C	B	ユビナガコウモリ、モモジロコウモリの新規確認による。
			鳥類	ミサゴ、タマシギ 等	C	C	
			爬虫類・両生類	—	—	—	
			昆虫類(コウチュウ類)	—			
			昆虫類(蝶類)	—			
			水生生物	釣川本流の田久橋から東郷橋あたりの流程、山田川中流部および周辺の水田地帯	C	C	
	7	吉田・多礼貯水池周辺	植生	代償植生(照葉樹二次林、夏緑樹二次林)	B	B	
			植物	吉田・多礼貯水池周辺	B	B	評価ランクに変化はないが、環境悪化による希少種の減少(特に湿地)が見られる。
			哺乳類	ノウサギ、カヤネズミ生息確認。	C	C	
			鳥類	トモエガモ、オオタカ 等	A	A	評価ランクに変更はないが、ミコアイサが越冬するようになった。
			爬虫類・両生類	—	—	—	
			昆虫類(コウチュウ類)	—	—	—	
			昆虫類(蝶類)	—		—	
			水生生物	—	C		
	8	許斐山	植生	山頂付近 自然植生(照葉樹高木林)	A	A、B	一部に二次植生があり、Bを追加。
			植物	許斐山山地	B	B	評価ランクに変化はないが、山麓部放置林、畑が増化している。
			哺乳類	テン・イタチ等の高次捕食者生息確認。	B	B	
			鳥類	ヤマドリ、サンバ 等	B	B	
			爬虫類・両生類	—	—	B	新たな知見が加わったことによるランクアップ。

表 10-5 保全すべき生態系を有する地域の分野別対応表（ゾーンⅠのみ）（4/5）

区分	番号	名称	関連分野の概要				
			分野	判定根拠	H18 評価	H28 評価	備考
ゾーンⅠ	8	許斐山	昆虫類 (コウチュウ類)	許斐山	A	A	評価ランクに変化はないが、森林内の乾燥化やタケ類の侵入による環境変化のためと思われる種数・個体数の減少。
			昆虫類 (蝶類)	—		B	
			水生生物	—			
	9	磯辺山周辺	植生	—		B	調査の実施により追加。
			植物	大穂の谷、馬頭観音とその上流域	B	B	評価ランクに変化はないが、(水源地)大穂地区人工林や奥地畑放置増加。
				磯辺山	C	C	
			哺乳類	ノウサギ、カヤネズミ生息確認および高次捕食者の生息の可能性。	C	B	自然度が比較的良く維持されている。ノウサギ生息。高次捕食者の生息の可能性有り。
			鳥類	オオタカ 等	B	B	
				キビタキ、キジ 等	C		
			爬虫類・両生類	—	A	A	
			昆虫類 (コウチュウ類)	—			
			昆虫類 (蝶類)	—		—	
			水生生物	朝町川から分かれる綿打川、子下ろ川、大穂川の上流部を含む地域		D	
	10	名残	植生	田代集落後背丘陵 自然植生(照葉樹高木林)	A	A	
				田代集落付近 代償植生(照葉樹二次林)	B	B	
			植物	名残の谷地田	A	A	評価ランクに変化はないが、市街化区域開発迫り今後影響観察要す。
				黙想の家－教会の森	B	B	
			哺乳類	原野が消失しつつある。		C	
			鳥類	ミゾゴイ生息の可能性、オオタカ 等	B	C	自由の森遊歩道が整備された。墓園建設のためオオタカが営巣していた植林が伐採された。
			爬虫類・両生類	—	B	B	
			昆虫類 (コウチュウ類)	名残の谷地田	B	C	乾燥化が進み、また、タケ類の拡大などにより、全体の種数、個体数共に減少している。特に、食菌性の種の減少は著しい。
			昆虫類 (蝶類)	—		A	
			水生生物	—			

表 10-5 保全すべき生態系を有する地域の分野別対応表（ゾーンⅠのみ）（5/5）

区分	番号	名称	関連分野の概要				
			分野	判定根拠	H18 評価	H28 評価	備考
ゾーンⅠ	11	八所宮	植生	自然植生(照葉樹高木林)	A	A	
			植物	八所宮	A	A	
			哺乳類	裏山が寺社林として維持されている。アカネズミの生息の可能性有り。		B	
			鳥類	アオバズク 等	C	C	
			爬虫類・両生類	—	C	C	
			昆虫類 (コウチュウ類)	—		A	
			昆虫類 (蝶類)	—		D	
			水生生物	—			
	12	鐘崎海岸	植生	鐘ノ岬 自然植生(海岸風衝草原、海岸風衝低木林、照葉樹高木林)	A	A	
				深浦浜 植林(クロマツ植林)	B	B	
			植物	鐘崎海岸・鐘ノ岬(織幡宮)・さつき松原(上八海岸)周辺	B	B	
			哺乳類	ハツカネズミ、キクガシラコウモリ等の生息が予想される。	D	C	砂浜が維持されている。キクガシラコウモリの生息確認。
			鳥類	—		C	
			爬虫類・両生類	—	—	—	
			昆虫類 (コウチュウ類)	—		A	
			昆虫類 (蝶類)	—		B	
			水生生物	岩礁地帯(磯)		D	海生生物の生息環境としての判定により追加。